

岩屋中だより

令和6年8月9日 NO11

発行 長崎市立岩屋中学校

文責：校長 川口 猛

私たちの目に映る「平和」は、本当に平和なの？

今の私たちの生活は、あたりまえではない。戦争で傷つき、亡くなった人たちの苦しみや悲しみ、無念さを決して忘れず、私たちに平和のバトンを渡した方々の意思。・気持ちを大切にしたい。

平和の尊さを学び、受け継ぐことは、私たちの使命である。それは、微力であっても、無力ではない。小さな一歩であっても、皆でやれば大きな一歩になる。

これから述べる話は、昨年度の学校便りも記載しました。繰り返しの話になるかもしれませんが、少し別の視点も加えながら、平和について考えていきたいと思います。

今から30年ほど前、私は、東京都で大学生を送っていました。私の通う大学は、全国各地から人が集まり、東京都出身はもちろんのこと、大阪、静岡、広島、福岡、石川、宮城、千葉、埼玉、神奈川、新潟、秋田、北海道……様々な都道府県の出身者が周囲にいました。仲間の中で、私は唯一長崎出身でした。仲間と話をする中で、平和に関する意識・考え方が大きく異なることを実感した学生時代でした。私が考える当たり前は、決して当たり前ではないことに気づかされたのです。

ある日、友人たちと夏休みについて話をしました。夏休みに登校する登校日についてです。私は、長崎出身ですから、8月9日は必ず登校日だったと話しました。8月9日に登校することに何の疑問を持っていません。私は当たり前のことと考えていました。しかし、不思議なことに、友人たちは、8月9日に長崎県の生徒が登校するということに疑問を感じていたのです。「8月9日に学校に行ってなにをするのか？」と問われました。「8月9日は学校で平和学習をすることを！」と言うと、他県出身の友人は、そういうことはないと言いました。しかも、なぜ、「8月9日は何の日か？」と問う友人もいたのです。友人は8月9日の意味をわかっていなかったのです。たまたま分かっていなかった友人なのかもしれませんが、私は、8月6日に部活の最中、黙祷をし、そして、8月9日には登校して平和学習を行うことに何の疑問も持たずに生活してきました。決してそれは当たり前のことではないということに気づかされたのです。長崎にとって、8月9日の原爆投下の日に平和の尊さを改めて学習し、亡くなられた人たちのご冥福をお祈りするのは当たり前かもしれませんが、長崎を離ればそうではない現実もあるのです。その意味では、私たちは、平和の大切さを学習できるチャンスに恵まれているし、その機会が多いことは、有り難いことだと思うのです。核兵器の恐ろしさ、長崎・広島の惨状、核兵器の使用は絶対に繰り返してはいけないことなど多くのことを学び成長することができます。だからこそ、長崎で学んだ平和の大切さを語り継ぎ、そして、後世に伝えていくことは、ある意味使命だと思います。語り継ぎことは小さなことかもしれませんが、しかし、そこから平和のネットワークが生まれることは、世界の平和の実現にとって大きな一歩になるのです。一人一人は微力かもしれないが、皆でそのネットワークを築いていけば、それは大きな力になるはずで

す。さて、私たちは、平和学習をする際に、当然長崎の原爆について学び続けてきました。学び続けてきた私たちの普段の生活は平和なのでしょうか？そこに疑問を持ったことはあるのでしょうか？私たちの身近なところも平和なのか？そして、長崎以外後も平和なのか？と考えることはあるのでしょうか。人の感情や利害関係が対立し、尊い命を奪ったり、心身を傷つけたりする戦争。相手のことを思いやる心さえあれば、それは起こるはずもない人間の行動です。その視点から私たちの生活を振り返りたいものです。武器を持って戦わずとも、他人を傷つけることはあり得るという意識が私たちには必要ではないでしょうか。世界の中では、多くの人々が戦争惨禍に（さんか）に苦しめられています。その苦しめられ

ている人たちは、その戦争が起こることを予測していたでしょうか？きっとしていなかったはずで。戦争はしてはいけないという考えや人を傷つけてはいけないという気持ちが世界中に広がっていきっかけを私たちからつくりたいものです。

私たちは、長崎の地にいるから長崎の原爆投下について学ぶことができています。長崎以外の地に住む人が長崎のことを知らないことを「どうして知らないの?」と言いたくもなりますが、違った角度でこのことを考えれば、次のようなことが見えてきます。私たち長崎の地に住む人間が、長崎以外の戦争についてどれだけ知っているかと言われたときに知らないことも多いという点です。沖縄戦について、東京大空襲について、神戸の大空襲について、佐世保の大空襲について、知覧の特攻隊について、川棚の特攻回天の訓練基地について、学童疎開(がくどうそかい)について、学徒動員について……。知らないことはたくさんあります。平和な世界をつくるために、「知ることからはじめよう」が重要ではないでしょうか。知っていること、知らないことをただ比較し、知らないことを責めても何のプラスにもなりません。知らなければ、知ればよいのです。事実を知らなければ、知らないがゆえに、私たちは、同じ悲しみを繰り返すのです。私たちは、「知る」ことから始め、そして、知り得たことを「伝える」「継承(けいしょう)する」ことが大切だと思います。

私は、被爆2世です。母が被爆者です。小さいころから、原爆の恐ろしさを聞いて育ってきました。原爆投下後の世界は、原爆資料館に展示している写真とは比べものにならないほど恐ろしく、悲しく、つらい世界だったと聞かされ育ってきました。「水をください」「助けて」「苦しい」という叫び声、「あー」「うー」といううなり声。遺体を見つけて泣き叫ぶ家族の声。現実、想像を1945年8月9日から79年経過します。被爆者は遠くない将来この世界からいなくなります。被爆の惨状を直接語れる人はいなくなります。「単なる過去の出来事」で終わらせることなく、長崎が最後の被爆地になるように、平和の尊さについて学び続けていきましょう。そして、語り継いでいきましょう。長崎以外の地における戦争も学び、グローバルな平和の眼をいきましょう。ふるさと「長崎」から平和を発信していくのです。たとえそれが小さな一歩でも、それは無力ではないのです。

仲間の幸せを自分の幸せとを感じる心

私たち人間は、社会的な存在と言われ、必ず社会と関わりをもち生活をしています。社会と関わりをもつと言う表現は難しいですが、簡単に言えば、人間は、自分以外の人間と一緒に生活し、互いに支え合いながら生活し、決して一人では生活をするのではないという意味だと解釈しています。全校生徒の皆さんは、様々な集団に所属し、切磋琢磨(せつさたくま)しながら、お互いに支え合って生活をしていると思います。支え合う仲間同士で、頑張った成果をたたえ合うことができれば、それは、きっと、互いの幸せにつながると信じます。

私たち岩屋中学校の仲間には、頑張った成果をこの夏発揮した人が多く存在します。仲間の喜びを自分のことの喜びとして感じとらえることができるならば、それは、お互いの関係が強い「絆」になるでしょう。喜び、幸せ、思いやり、支え合いはつながっていくこと、つなげていくこと……………。最近よくそう思います、。

この夏の仲間の頑張りを紹介します。

長崎県中学校総合体育大会

<陸上競技>

棒高跳 1位 Wさん(全国・九州大会出場)

砲丸投 2位 Mさん(九州大会出場)

<空手道競技>

形 第3位 Yさん(クラブチームから九州大会出場)

<NHK 合唱コンクール長崎県予選>

合唱部 金賞(九州大会出場)

九州中学校体育大会

<陸上競技>

棒高跳 1位 Wさん

仲間の喜びを互いにたたえ合い、さらなる活躍を期待したいですね。きっと、互いにたたえ合うことができる社会になれば、それは平和な社会の実現につながるはずで。個人情報保護のため、個人名をアルファベットにしています。

終業式に美術部の皆さんから似顔絵をいただきました。うれしくて涙が出ました。次号で、その似顔絵を紹介します。心がほっこりする素晴らしい似顔絵です。